



「早期がん・診断と治療」研修会 開催報告

当院では毎年、諏訪二次医療圏のがん医療に携わる医療従事者を対象とした「がんの早期診断と治療」に関する研修会を開催しています。

今年度は“肺がん”に焦点を当て、2名の講師がお話しました。院内外から会場・WEB あわせて65名の参加があり、コロナ禍でも久しぶりに地域の医療従事者の皆さんと共に学べた貴重な時間となりました。

令和2年度「早期がん・診断と治療」研修会（オンラインWEB同時開催）

日時：10月23日（金）18:20~20:00

場所：諏訪赤十字病院 研修センター

参加者：65名（会場・WEB）

内容：「肺癌患者の看護について」

諏訪赤十字病院 がん看護専門看護師 高林峰香 先生

「早期発見を含めた肺癌診療の最新情報」

信州大学医学部附属病院 信州がんセンター

准教授 神田慎太郎 先生



高林看護師には、主に肺がん患者の呼吸困難等の症状マネジメントや、患者さんのQOLを支えるがんのリハビリテーションについてお話をいただきました。

神田医師には、検診からがんゲノム医療まで、肺がん診療における最新情報について幅広くお話をいただきました。まとめでは、早期肺癌にも分子標的治療や免疫チェックポイント阻害剤を含む集学的治療の開発が進められていること、肺がん治療には様々な選択肢が登場しており、個別に適切な治療を見極めていく必要があることについてお話がありました。